

# 会 議 議 事 概 要

会議の 名 称	生命倫理委員会	日 時	平成29年11月16日(木) 16:45~17:15
		場 所	治験管理室内会議室
出席者	委員長：大江田臨床研究部長 副委員長：柳田統括診療部長 委 員：澤田副院長、内炭救急部長、白石小児科医長、須藤神経内科医長、 小林外部委員、松蔭外部委員、濱田看護部長 加藤事務部長、吉崎管理課長  (書記) 庶務係長		
討 議 事 項			
<p>平成29年6月12日に国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所より情報提供された、医学系研究に関する倫理指針等不適合に関する報告に係る報告書及び答申書（研究所研究倫理審査委員会資料）に対する対応について。</p> <p>&lt; 議 題 内 容 &gt; 【多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明】において送付された検体の取り扱いについて 受付番号：26-13 研究者：診療部長 田中 正美（平成28年3月31日退職） 研究期間：平成26年7月18日～平成28年3月1日（終了）</p> <p>現状の問題： 本研究は、当院に在籍していた田中正美医師（以下、田中医師）により行われていた多施設共同研究であった。田中医師は分担研究者の一人であり、また当院に他に共同研究者はおらず、退職時に引き継がれていない。 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（以下、基盤研）からの情報によると、患者同意を得た検体のうち当院より基盤研へ送付されたものの1検体が、後に研究対象外であったと判明した。その時点で基盤研より、田中医師へ該当検体の返却を連絡したが、その回答は得られず、田中医師は当院を退職した。 基盤研では、研究所研究倫理審査委員会において当該検体の取扱について審査がなされた。その結果「研究対象外であることが判明した時点で、研究対象試料から除外して、適切に試料・情報の廃棄をする事」という答申がなされた。当院へはその後、平成29年6月12日に当院生命倫理委員会事務局宛研究所研究倫理審査委員会資料と共に当院生命倫理委員会にて同様の審議を行うよう依頼があり、昨日本事案を委員長に報告した。今回、本事案についての経緯を報告すると共に、今後の対応について審議されたい。</p> <p>..... 審議結果： 当該研究分担者であった田中医師に、平成29年11月末までに適切に対処するよう連絡する。本委員会では、11月末までに必要な対処がなされない場合には、基盤研からの申し出に従い、当該患者検体を手順に従って処分いただくことが妥当と結論した。また、現状患者に対する説明ができないため、本日の審議概要をすみやかに情報公開すること。</p>			